

10月お誕生日のライオンの皆様 おめでとうございます。

溝口 淑子L.(4日) 石井 祐治L.(7日、82)

菅野 剛(16日、45) 内藤 亘L.(18日、59)

皆様にとって素晴らしい一年でありますよう
ライオンズメンバー一同祈っております。

10月24日は動員
献血です。ご協
力宜しく願いま
す。L食野

9月26日、ガバナー公式訪問例会が開催されました」

オンズクラブ国際協会330
ガバナー公式訪問 合



9月26日(月)18時~新宿ヒルトンホテル「菊の間」においてガバナー公式訪問例会が開催されました。中野ライオンズクラブからは40名近くのメンバーが参加し開会の挨拶を山下会長が行うなど、会の存在感を示しました。出席いただきました皆様に改めてお礼と感謝を申し上げます。

「ゴルフ部総会開催」

9月8日(木)18時~West53 日本閣においてゴルフ部の総会が開催されました。8月26日、小田原湯本カントリークラブに於いて開催された第230回ゴルフコンペと一年間の活動報告、今後の活動方針の披露後、懇親会とミニゴルフ大会が開催されました。優勝は前回大会に続き田中(淳)Lで2冠に輝きました。次回231回ゴルフコンペは、よみうりゴルフカントリー倶楽部で開催いたします。当日夜はゴルフ部の忘年会も予定しております。(ゴルフ部 部会長 麻沼雅海)



「軍港めぐり」

9月7日(水)「自衛隊をもっと知ろう」ということで海上自衛隊横須賀總監を訪問した。参加者は山下会長以下約20名の会員と知人の方々が参加致しました。中野区役所前をAM8:00に出発、10時頃横須賀基地に到着。護衛艦(おおなみ)に乗船視察中、6ヶ月振りに帰還するイージス艦に遭遇しました。港内の軍港めぐりの後、昼食、買い物を済ませ、夕方中野へ戻りました。大変楽しい企画に参加者全員、大満足の日でした。企画いただきました、佐藤L、高橋Lありがとうございました。

9月は19日(月)敬老の日、22日(木)秋分の日に中野駅南口で国旗掲揚が予定されておりましたが、両日も雨天中止となりました。それでもメンバーはルノールに集い、楽しく委員会を開催いたしました。また10月10日(月)体育の日は晴天に恵まれ、秋晴れのもと国旗掲揚を行うことができました。ご参加いただきましたライオンの皆様ありがとうございました。次回11月3日(木)文化の日(担当、出席委員会)11月23日(水)勤労感謝の日(担当、PR情報委員会)です。次回も多くの方のご参加をお待ちしております。 国旗委員長 中郡一雄

参加メンバー
9月19日・・・安川L、柳L、鳥居L、都L、佐藤L、高山L、山下L、高橋(万)L、L中郡(9名)
9月22日・・・柳L、吉田L、石井(祐)L、鳥居L、都L、佐藤L、高山L、山下L、高橋(万)L、L中郡(10名)
10月10日・・・柳L、石井(祐)L、都L、佐藤L、高山L、山下L、高橋(万)L、田中L、花堂L、L中郡(10名)



- ・今月第2例会のいの木ライオンズクラブとの合同例会は延期となりましたが、予定通り10月26日(水)18時開催となりますので、お間違えのないようお願い致します。
- ・10月29日(土)、銀座にて薬物大パレードが開催されます。本年330-A地区の公式イベントになりますので、皆様のご参加を宜しくお願い致します。
- ・10月18日、13:45~14:30 中野区立江原小学校において薬物教室を開催致します。出席可能なメンバーは久保委員長までご連絡をお願いします。 **重要です**





「一本の牛乳」

誰もが貧しい時代でした。町外れの古びた下宿に、医大生が住んでいました。



青年は学費どころか、日々の生活費にも事欠く苦学生でした。何日も食べ物をお口にしていない青年は、悩んだ末に大切にしていた本を何冊か手にして古本屋に向いました。

その本屋は、青年の懐具合をよくわかっていて、いつも高い値段で買ってくれました。ところが、その日にかぎって、古本屋の主人が病気で店は閉まっていたのです。



そのまま帰る気力さえなくなってしまう青年は、心虚しく力がぬけて、せめて水だけでももらおうと、古本屋の隣の家の戸を叩きました。

「すみません。誰かいませんか」その家には、ひとりで留守番をしている女の子がいました。

青年は女の子に頼みました。

「何か・・・、何か食べ物を分けてもらえませんか」

「ごめんなさい、何もなしの・・・」

女の子はとてすまなさそうな顔をして言いました。

「じゃ、水だけでいいから一杯いただけませんか」

女の子は、台所から牛乳を一本持つてきて、何も言わずに青年に手渡ししました。青年はとても恥ずかしく、また女の子に悪いと思ったのです。あまりの空腹に耐えられず、その牛乳を一気に飲みほしました。



それから数年が経ちました。その女の子の母親は、重い病で入院を繰り返してしまいました。女の子はつきつきりで看病してきましたが、母親の病気を治すためには手術するしかありませんでした。でも、その手術はとも難しいうえに、高額なものでした。どうしても母親の病気を治したい女の子は、母親に言いました。

「お母さん手術してみようよ」

「うちにはそんな大金はないよ」

「大丈夫よ。お母さんが元気になったら、私が一生懸命働くから。ね、だから手術してみようよ」



こうして、女の子の母親は手術をするために入院することになりました。女の子の気持ちに天に通じたのか、母親の手術は成功し、奇跡的に回復しました。女の子は、母親が元気になったことを何よりもうれしく思っていました。

退院の手続きをしようと窓口に行った女の子は、請求書を受け取って驚きました。

「入院費と医療費は牛乳1本。支払い済み」

女の子の母親の手術をした医者は、その昔、

女の子が牛乳を差し出した青年だったのです。あの貧しい苦学生時代、青年にとってそれはただの牛乳ではありませんでした。それは食べ物であり、また希望だったのです。



私たち中野ライオンズクラブの多くのメンバーも青年時代にこうした時代背景の中で生き抜いてこられた方も多いのではないのでしょうか。これほど劇的な出会いはないでしょうか。これほど劇的な出会いはないでしょうか。皆が助け合って暮らしていたように思います。最近、他人を見れば警戒し、疑わざるを得ない殺伐とした世の中になってしまいました。でも、このような世の中だからこそ、『情けはひとの為ならず』と、他に温かく接していきたくと思います。そして、『受けしご恩も忘れず』と、つくづく思うのです。まずは身近なライオンズの仲間を励ましあう関係でいたいものです。

53期 会長 山下 晃司

役員一同